

○ ○ ○ ○

日程第1. 市政一般質問

○議長（作元 義文君）　日程第1、市政一般質問を行います。

それでは、届け出順に発言を許します。8番、阿比留梅仁君。

○議員（8番 阿比留梅仁君） 皆さん、おはようございます。朝っぱらから、発言の取り消しかで、何か出ばなをくじかれたみたいで、不愉快でございます。

私は、議長の許可をいただきましたので、集落対策について、とんちゃん部隊について、職員定数削減についての3点に対し、市長にお尋ねいたします。

それでは集落対策についてから、お尋ねいたします。

2008年にアメリカで起きたリーマンブラザーズの破綻に始まり、世界はかつてない金融危機となりました。このことは社会経済に深刻な打撃を与え、未曾有の同時不況となりました。輸出産業の停滞、低迷で、我が国の経済産業は日を追うごとに大量の雇用解雇が始まり、大変厳しい時代が続いております。

本市において、集落の再生については、旧町時代より、集落の環境の整備、村おこし等々、（聴取不能）な政策は変えて、集落再生に取り組まれてきましたが、思いどおりには進まず、集落の衰退は合併後、急速に進んでおり、集落としての機能が停滞しております。

現在、対馬の基幹産業である水産業における年間約800億程度の生産は、この180ほどの小集落の住民の恩恵によるものです。この小集落の特徴は、長い年月をかけて、離島振興法等々の恩恵により、立派な漁港整備がなされたにもかかわらず、後継者不足で、その立派な漁港施設の活用さえも危うい現状です。

対馬は約180の小集落からなり、対馬の経済を支え、この小集落の再生なく本市を論ずることはできません。そのことを念頭に、今、この集落の危機的状況は、1つ、荒れた小さな耕地を管理する人がいない、2、荒れた山林を管理する人がいない、3、後継者がなく、歴史ある家の墓守をする人がいないの等々ではないでしょうか。

現在、私の住んでいる旧久原校区、鹿見、久原、女連は、世帯数が212世帯、鹿見97、久原54、女連61でございます。人口は470人。鹿見198、久原140、女連132でございます。このうち60歳以上は、約46.8%、229人になっております。これの、私は農業、そのほかの年間収入はわかりませんが、水産業の約8億から、大漁のときには十二、三億の間で毎年やっているようでございます。

以上が、旧久原校区の現状であります。近い将来に、この3集落では、後継者がなく、集落機能が衰える可能性が高く、水産業の年間生産もなくなることが考えられ、大変危惧いたしております。今、私の申したのは、私が住んでいる旧久原地区のことですが、対馬180ほどの小集落が同じ悩みがあるのではないかでしょうか。対馬から、この集落機能が作用しなくなったときのことを考えると、末恐ろしくなります。先ほども申したように、「宝の島」の再生は集落の経済的再生と後継者育成なしで論じることはできません。

本市においても、市長就任時より、地域マネージャーの制度を導入され、集落再生問題に積極的に取り組んできましたが、その成果はあまり出ておりません。新しい対馬の島づくりは、短期間に達成できるものではありません。しかし、100年後の新しい対馬の集落をつくるにも手際よい政策の立案があつてこそと考えております。この機会を利用し、大好きな市長と仲よく100年後の新しい宝の島対馬を次のテーマを視点に論じたいと思います。

1つ、集落の維持・活性化にかかわる今後の過疎対策に対し、4つの要望をいたします。そのうちの一つ、地域特性や集落構成に応じた対策の推進と目配り体制の構築の要望。

2、集落支援員の導入等による地域の自発的、技術的な取り組みへの要望。

3つ、集落の枠を超えた連携を促す場や機会の創出の要望。

4つ、集落活動を支える外部からの人材の確保、活用の要望。

2番目といたしまして、生活交通の確保に係る今後の過疎対策に向けた3つの課題として、1つ、真に必要な生活道路の整備と適切な維持・管理に関する課題、2、広域的な基幹道路の計画的な整備や広域的公共交通システムによる中心集落とのアクセスの確保に関する課題、3、集落の交通需要の的確な把握と一層の規制緩和等による生活交通の確保に関する課題、以上の4つの要望及び3つの課題に対し、市長と政策について論じたいと思います。

次に、第2点目の「とんちゃん部隊」について、お尋ねいたします。

B-1 グランプリ全国大会2位のとんちゃん部隊にお祝い申し上げます。

B-1 グランプリでゴールドグランプリになった団体は一気に知名度が上がり、その団体の地域に経済効果をもたらしているようあります。例えば、平成18年と平成19年にゴールドグランプリになった「富士宮やきそば学会」の場合は、平成13年度以降9年間の経済効果が439億円に上ると試算されている。

平成20年ゴールドグランプリになった、「厚木シロコロ・ホルモン探検隊」の場合は、経済効果が本大会後の3カ月で、約30億になったとされております。また、平成21年にゴールドグランプリになった、「横手やきそば暖簾の会」の場合は、横手市内のホテルで、休日の宿泊客が伸びたり、「横手やきそば体験ツアー」が企画されたりいたしております。

平成22年にゴールドグランプリになった「甲府鳥もつ煮」で「みなさまの縁をとりもつ会」

の場合は、本大会の翌日から、甲府市内の鳥もつ煮を提供する飲食店に客が詰めかけ、普段の5倍以上の客足となる店があらわれた。

甲府市内の精肉店でも、取扱量が3倍から4倍となる店があらわれたり、大会の開催地にも経済的効果をもたらしている。

平成22年の厚木大会では、経済効果が36億円あったと算出されているようです。これを機に、本市でもさきの集落の質問で述べた約180の小集落の特徴である荒れた耕地を管理する人がいないところ、荒れた山林を管理する人がいないところ、後継者がなく、歴史ある家の墓守をする人がいない地域等々解決するために、各集落の荒れた小耕地を利用し、農業後継者に養豚を奨励し、対馬ブランドの養豚の生産施設整備を立案・検討されるよう御提案いたします。

次に、3点目の職員定数削減についてをお尋ねいたします。

自治体の定員管理については、例えば、アウトソーシングや多様な雇用の形態の活用、事務事業の効率化、ICT化、市民協働の促進を推進すること等により、職員を削減していくことが求められている。一方、近年の住民ニーズは高度化、多様化しており、自治体には少ない職員数で最大の効果を上げるという、ある種、矛盾とも言える定数管理の目的を実現するため、いかに業務と職員数の最適化を図るかが求められております。

そこで、本市において、1つ、現場、業務量の的確な把握について、1つ、既存業務量の算定、新規業務量の算定、2つ目に、最適化を図る定数査定業務プロセスが構築されているのか。この構築のあいで、目標の設定と2番目に公平・公正な査定システムの確立等がなされているかどうかの点について、また、同じ業務量に対して、少ない人員で対応できる動的執行体制の確立の3点は確立されておりますでしょうか。お尋ね申し上げます。

以上、3点、提案いたしましたが、制限時間の関係上、短い答弁と集落再生についてを主に時間をお願いしたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 阿比留議員の質問に答えさせていただきます。

提案がたくさん、項目があったもんですから、書とめられなかった部分もあります。欠落した分については、また、御指摘をいただきたいと思っております。

集落、確かに、181島内にあります行政区。これが全体として、縮んでいっているというのは事実であります。その中で、なぜ、こういうことが起こるのか。当然ながら、働き口が減っているということが大きな原因だというふうに思ってます。それに伴って、じゃあ、集落は今、どういう状況に陥ってるかといいますと、今、阿比留議員が言われたように、耕作放棄地というのがどんどんふえていく。そして、イノシシ問題もそれにあわせて出てくる。また、財産である森の管理が行き届かず、荒廃化していく。おのずと空き家もふえていく。治安がそれに伴って悪

くなる。いろんな悪循環に陥っていると思ってます。

また、集落によっては、小規模の店舗がなくなっていくということ。それに伴って、交通弱者である皆様が買い物が不便になってしまうというふうなこと。また、文化的な面で考えますと、その地区のコミュニティが成り立たないということは、以前からの、その地域が持ってる、いろんな習俗関係が続いているかいないというふうな大きな問題を抱えているというふうに自分自身把握はしているところあります。

そういう中、先ほど、阿比留議員がおっしゃられましたように、私、この点に関しまして、集落を再生していくためには、今までの行政、そして市民の皆さんも、考え方では成り立たないという思いで、全国に先駆けて、地域マネージャー制度というものを導入しました。このマネージャー制度には、地域で濃淡が確かにございます。そして残念ながら、職員の力量というのもあります。そして地域の熱というものも、そこには当然加わってくるものであります。そういう中、この地域マネージャー制度によって、地域に入っていく職員。そして、それを受けとめる地域ということで、何が起こってきてるかというと、ある地域ですが、今まで、陳情・要望というのがよく私のところに、文書であったり、お見えになって、お渡しになるケースがございます。今まで20項目近くあった要望項目がことしから3項目に減ってました。何で、こんなに減ったんですかって、逆に聞きましたら、14項目全てができるわけでもないと。去年より比較してですね。できるわけでもないんだけど、よくよく、みんなで話し合ったら、自分たちでできることだったと。だから、自分たちでできないことは何だろうというふうに選び抜いたら、3項目だったというふうな話がありました。ただし、その出さなかつたものについて、地域経営上、地区としては、自分たちでやっていく順番を決めていきたい。それをやれるのは、行政に頼んでたら、仮に20項目あって、5項目目から、4項目から20項目までの自分たちができるかもしれない項目が行政に任せてたら、15項目目から着手するかもしれない。しかし、自らの経営戦略上は、やはり4番目から順序立ててやっていきたいと。それが地域がうまく動いていくやり方だというふうなことに気づいたと。だから、あえて、それは要望に出さない。ただし、自らが地区として、マネージャーと一緒に動き出すときには、それなりのかわいい支援もしてくださいということのお話が来たときに、ああ、地区の中で、いろんな、今までと違う地域をつくっていきたいと。地区をつくっていきたいという思いで動き出しが始まったなというふうに、私自身は喜びましたが、これが対馬中の地区に広がっていくことを、そのときは願望した次第でございます。これから、集落の再生というもの。そして、一人一人の地区の方々の気持ちが前向きに行くことに向かって、行政として、さまざまな取り組みを、行政というよりも、職員、そして一人一人の職員がその動き出しをしていくことが、すごく大切だと思っておりますし、そういうつもりで、これからも職員のほうには協議しながら指示を出していきたいと思っております。

先ほど、ある地区的話をしましたが、やはり、集落の住民がその地区的課題は自分らの課題なんだというふうに捉えていただいて、私ども行政がそこに対して、地域マネージャーを配置することによって、十分な目配りをした上で、支援、施策、展開をしていきたいというふうに思っております。どうか、御理解のほど、お願ひいたします。

そういう中、集落再生の維持のため、集落に応じた支援制度というふうな御提案がありました。先ほど言いましたようなことを進めていく中で、十分な気配りができる、目配せができるような地域マネージャーにどんどん制度としても熟度を上げていきたいと思います。

それから、集落支援員のお話がございました。集落支援員は、今、おっしゃってあるのは、総務省における集落支援員制度なのかどうか、ちょっとわかりませんが、ある意味、私どもは集落支援員を地域マネージャーという、先に走りましたので、マネージャーを集落支援員的な考え方でおりましたけども、今、阿比留議員がおっしゃったような集落支援員とは、若干違うのかなというふうにも思いますが、また、後で、その話を聞かせていただければと思います。

また、さまざまな、仮に、1地区だけではなくて、横の地区、仁田地区とかいう、そういう地区との連携というのは、当然、仮に久原校区でありましたら、鹿見、久原、女連の位置、3つの地区から成り立っておりますけども、その1地区が校区という単位で物事を広げていくこと。そして、その久原校区が三根、仁田の今度は校区とどうつながっていくかということは、地域マネージャー会議のほうでも、横連携ということで、今、進めておるところでございます。

また、外部活用のお話がございました。これにつきましては、昨年の4月以降、地域おこし協働隊ということで、外部からの力を導入しようというふうにしております。今、5名お願いをして、さまざまな形で動いてもらっております。特に、上県の志多留地区に入ってる木村幹子隊員におかれましては、さまざまな活動を集落の人と一緒にになってやることによって、高齢化率の高い志多留地区の人たちに、今、次の展開というものを区長さんと一緒にになって、つくり始めるというふうに思います。そういう意味において、この外部からの力というのをこれからは導入を積極的にしていかなくてはいけないという思いで動いておるところでございます。

また、生活交通としてのあり方をどのように考えていくのかというふうなお話がございました。これにつきましては、現時点において、バスの問題をどうするかという論議の中で、地域の細かい交通の体系までを、今、組み立てをしております。コミュニティバスの問題、それからデマンド交通の問題、そして、スクールバスの一般混乗の問題を絡めながら、皆さんの足、生活交通というものをきちんと確立していくために、今、組み立てを鋭意進めておるところでございますので、今しばらくお待ちいただければと思っております。ただし、集落の過疎化とかというのがすごいスピードでありますので、私どもも、安穏と物事をやっていこうというふうには思っておりません。頑張っていきたいと思います。

それと、2点目に入ってよろしいですか。（発言する者あり）それだけでいい。（発言する者あり）

○議長（作元 義文君） 8番、阿比留梅仁君。

○議員（8番 阿比留梅仁君） 過疎化の対策については、早急にできるもんではないことは、私も十分知っております。しかし、少なくとも、私、対馬の経済を大阪と対馬を行ったり来て、30数年見ております。その中で、漁港整備等に、ものすごいハード面に旧町時代力を入れられました。漁港整備、港湾設備だけではなかったかと、かように思ってます。というのは、その人たちの考え、私、間違ってないと思うんです。というのは、対馬の耕地というの、収益上げる耕地はありません。農地はね。山林も、今の木材のことを考えれば、到底、期待する状況ではない。あとは水産業。この伸びすしか方法なくって、漁港にものすごい、離島振興法のお金を使ってされたと思います。しかし、漁港が完成した途端、観光がほとんどなった時点では、どんどん人口が減っていきよる。なぜかと言えば、ただ一つだけ、つくることだけをして、それに対する、後継者育成に対するソフト面の支援がなかったということなんですね。つくること。ハード面のあれをつくって、後継者が残るための何をしたらということを皆さんと考えてなかつた。この何十年間。30何年間。そして、ばかみたいに、企業誘致、誘致。その結果、どうなつたかつて言えば、島内の企業には、企業に働いてる人たちが縫製工場にほとんど行きました。そして、人件費が高くなると中国。今、中国から今度はベトナムと。安いところに求めていく。だから、対馬に来る業者、企業誘致で、まともなところは、私、来ないと思います。だから、そのとき自身に、そのことを考えずに、いつも私が提案しとったのは、ハードとソフトと一緒にセットしなければ、いつか、後継者いなくなるよと。これが今の現実になっているんじゃないでしょうかね。そして、今、財部市政に私が問いたいのは、あなたは最近、今度はソフト面だけ考えてる。これは大事なことですよ。やっぱりね、対馬はまだハード面がものすごくおくれてます。同時に、その集落によって、マネージャーを置いた。そのマネージャーが、さつき、あなたは、支援員が私はマネージャーと思うてるけえ。私が言う支援員というのは、各地区に支援員を任命し、その地域マネージャーと一緒に、その地域のことを話し合いながら、一方通行じゃないんです。両方で会議をしないと、私の地区では、ほとんど地域マネージャー1回、ここにおる、あの方が来られました。そのときに、私、大事やからって、出ていきました。そのとき、私は、この3地区を、久原校区をどのような、あなたは振興計画を持っているんですかと。それをまず説明してくださいと申しました。そうすると、その答えはありませんでした。私たち住民は、その地区の人たちは、中には、中学校しか出てなくて、漁師してるともあります。高齢者もおります。その地区を合併して、どのように振興計画をしてるのか。いう計画がありますから、いう説明があつて初めて、それだったら、こういう施設をつくってくださいとか、こういうことで、この3地区もと

もに歩きましょうという話ができるけど、話の材料ない。やっぱり、そのためには地区で任命した支援員。そして行政からのマネージャー。これが定期的に連絡しながら、しないと、このマネージャー制度は一部の地域だけの政に終わってしまうんじゃないかと私は危惧しております。

それと、もう一つ、これは市長だけじゃなくて、行政の皆さんにお願いしたいのは、集落、対馬の集落が大事なことは皆さん御存じだと思いますよ。その集落の人口分布、将来どんなふうに、100年後はしたいのか。それによったら、ハードもソフトもどういうふうな予算配分をしたらいいかということのはっきりしたことが何もない。今、久原校区に若い人たちが住めって言うても、学校もない。図書館もない。人間らしい生活ができないのに、若いもんは住みませんよ。地方交付税というのは、そういうお金のない地域に対して、地方交付税で賄っていく。格差の是正をしてる。国は。対馬市はどうか。北部のそんな隅々のどこにそういう手当が、拡散するための手当がどんな手当がなされてるのか。私は、こういうところが一番大切なことやなかろうかと。巖原を東京と見た場合。その東京で収益があった税金を地方に配付してるんです。しかし、対馬は逆なんです。その小さい集落が大きな水揚げしてるんです。にもかかわらず、生活道路はがたがた。何も恩恵がない。これでは、各180の小さい集落で後継者ができる、一所懸命頑張る気は皆さんなくなりますよ。まず、そういうことからね、行政改革もし、お願いしたいと思います。

だから、そこで私はね、市長に対馬の180集落の人口分布を、100年後をどういう分布を考えているのか。それによって、どこに行政をどういうふうに置いたらいいかということがわかつてくると思います。もう合併してから、相当な年数もたつですから、そろそろ行政の皆さんと一緒に考え、議会も考えてする時期が来てるんじゃないかと思いますが、どうでしょうか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 冒頭のハード、ソフト両面から物事をと、ソフトが多すぎるんじゃないかというお話をございました。また、集落の生活基盤といいますか、そのあたりのハード面といのもきちんとしないと、そこに住み続けられないというふうなお話かとも思います。それにおいて、ずっと、この何十年にわたって、この対馬で最も大きなネックになる問題は、やはり、道路問題だというふうに思ってます。移動が難しい集落地形といいますか、地形上、そこに集落があるわけですが、その地形上、どうしても移動が難しさがあります。それに多額の費用を必要とした。そして、それが思う通りに進んでこなかったということで、それをないがしろにしたまま来た部分があろうかと思っております。今回、やっと、2路線について、物事を着手をしていく方向性を見出させてきました。その2路線が市道新設で始めることによりまして、多くの地域から上がっておる県道の改修の要望につきまして、大体県のほうも年間の事業費とか、事業量というのは、大体の方向がありますので、そういう中、私どもが市で先に担うことによって、今の県道が、既存の県道改修が終わった後、次の改修に入っていくときに、スムーズにそういう地域に入

つていけるような方向が見えるんではないかと。例えば、雞知工区が終わった場合、加志箕形間のところが、今入会でやっておりますけども、そちらにすんなり入って行けるとかいう問題もあります。そのあたりで、皆さんに、次は、こういうところに入ってくるなというこの展望を開けさせていくということが、やはり、行政、市政としても必要だという思いで、今回、そのような動きをさせていただいたところであります。

生活基盤のためのハードというのに関しましては、細かいところにつきましても、地域から上がってくる要望等には極力こたえてるつもりでございます。まだまだ行き届かないところもあるうかと思いますけども、皆さんの地区の方向性とかいう物事が地区地域づくり計画によって見えたときに、そのハードというのの必要性も当然出てくるわけですから、それについては、しっかりと、最優先で取り組んでいきたいというふうな考えを持っております。

先ほど言われました、集落支援員のお話は理解できました。動いてる地区はともかくとしまして、動きがうまくいってない地域等々について、逆に集落支援員等を配置をしてもらいながら、マネージャーとともに物事を組み立てていくということの方向もとれるなというふうに、今、感じたところであります。また、もう1点の集落ごとの人口の推移を見ながら、対馬の人口分布の想定をするのはどうかと。その中の施策展開という方向もあるんではないかというふうな提案でございます。それにつきましては、当然、私どもよく全体の数値、人口の推移だけで物事を今までやってきておりましたけども、細かい集落の人口推移というのまでは、の積み上げというのはやってきてないのが現実だと思っております。そういう意味において、そのような中で、どのような振興施策がそれに基づいてできるのかということは、今後の市政の持つべき方針についての貴重なデータづくりにもなろうかというふうに思って感じております。

○議長（作元 義文君） 8番、阿比留梅仁君。

○議員（8番 阿比留梅仁君） 私、なぜ、これを聞き出すかいいますとね、漁港の問題と人口分布というのは、対馬で水産業をするためには、その漁港設備がなかったらだめなんですよ。例えば、鹿見漁港で、久原、港湾になってますけど、補助金の名目で港湾にしたと思いませんけどね、立派な港湾があります。私も小さいときには、和歌山から紀州船がヨコワ釣りに来てました。港いっぱいでしたよ。でも、そういう百何十個ある漁港。金をかけた、ものすごい金をかけてますよ。この漁港をフルに活用しなければ、対馬はだめになってしまいます。そういうことで、各集落ごとの人口分布、ここに何人住んでください。ここに何人世帯を住むような行政のあり方をするのが一番最優先じゃないかということが一つ。そういうことなんです。

それと、もう1つはね、交通アクセスの問題で、私、定期バス、対馬交通。私は、ものすごい、今、何億という年間金を使ってますね。バスはがらがら。もう思いつ切り、交通会社の働いてる人たちには悪いけど、整理する必要があるんじゃないかなと。そして、今、いろんな福祉事業とか、

いろんな方々の送迎バスとか、いろんなのと連絡しながら、協議をしながら、地域のアクセスを考えていったらどうかと。そしたら、案外安上がりにできるんじゃないかと。このように思っておりますが、どうでしょうか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 1点目の漁港と集落といいますか、のあり方ということで、集落再生のために、対馬の水産業というのが、もう当然基幹産業であるというのは事実でありますし、そういう意味において、ハードを、あれだけのハードを今までつくってきたと思っております。ところが、これから大切なことは、その漁業資源をどのように守っていき、それに付加価値を上げるのかということだと思うんですが、そのために、今、海洋保護区という定義づけを求めて、動きをずっと進めております。10月18日の水産経済新聞でしたか、それにやっと、大日本水産会の会長である白須会長のほうが、科学的根拠に基づくものであれば、海洋保護区について、一定の理解をしていくというふうな方向性も出されたように報道ではありました。今まで、この2年間、ずっと海洋保護区で訴えてきましたが、なかなか難しいことがいっぱいあるんですけども、しっかりと言ってきたおかげでしょうか。大日本水産会もそういう方向性を出していただきましたので、集落、そして水産業、そして漁港、そして水域の資源というのを、これから私どもはどのように生かしていくかをしっかり考えたやり方で、集落再生というのにつなげていきたいというふうに思っております。

地域公共バス的な話がございました。これにつきましては、先ほど申しました、地域コミュニティバスの導入ということを今ずっと検討をしております。地域の方々にやはり元気を出してもらうために、私どもが今組み立てておる案でやれないかと。今、その中に、NPO法人とか、NPO法人のお名前ちょっと忘れましたが、有償移送サービス関係を考えてある法人もあるようございます。そういう方たちのやり方も入れながら、いろんな手法はあろうと思います。そのことによって、地域の交通弱者の方たちにとって、利便性が高まるというやり方。そして今現在、対馬交通に支出しております補助金との見合いの部分を考えながら、次の展開というものを考えていきたいと思ってますし、もう実現可能だと思ってます。

ハードとソフトの話がございましたが、実は、今新たに取り組もうとしております2路線の市道新設の話ですが、今の交付金のあり方として、ハードにソフトが絡んでくる交付金となっておりますので、今、おっしゃられるような部分というのを一体に交付金化しながら、地域の方がそういう形に参入できるような方法を見つけ出していくたいと思っております。

○議長（作元 義文君） 8番、阿比留梅仁君。

○議員（8番 阿比留梅仁君） この問題は感覚の違い、いろいろな問題あると思うのですが、私、これ市長だけやなくて、きょう行政の皆さんに（「済みません、聞こえないんですけど」と呼ぶ

者あり）（「マイクが少し低いとかな」と呼ぶ者あり）市長だけじゃなくて、行政の皆さんに特にお願いしたいことは、この集落を再生するために、次の3点を私はしつこいようですが、改めてもお願いいたします。

市が集落再生の立案実施してから集落機能が働くまで、どのくらいの年数がかかると考えているのかという。これを考えながら、立案していただきたい。

地方交付税の趣旨では、地域格差の是正が配慮されている。本市において、集落過疎の配慮がどこに置いておられるのか、これも同時に考えてほしい。

それと、3番目に対馬の100年後における各集落の人口分布。生産性等々を計画して、長期的な政策を立案してほしい。と申しますのは、私、30年ほど前、壱岐の島にある学者が、この島は3万人か、5万人が人口の限界だと。対馬は10万人が限界だという学者がおりました。これは面積、耕地面積、そして水産資源、これ等々を学者が計算しての数字だと思います。対馬は、今、3万人ですか。3倍にして、全体が3万人ですけど、各集落の分布を考えなければ、全体の3万人は、10万というのは到底あり得ないと思います。そういうことを踏まえて、大至急、立案、実行していただけないと、なかなか人口は減るだけで、先に進まないと思いますので、よろしくお願いいたします。

これで終わります。

○議長（作元 義文君） もう終わり。はい。阿比留梅仁君の質問は終わりました。

○議長（作元 義文君） 暫時休憩します。開会を11時から行います。

午前10時47分休憩

午前11時00分再開

○議長（作元 義文君） 再開します。

次に、1番、渕上清君。質問者はマイクを少し近づけて話をしてください。

○議員（1番 渕上 清君） わかりました。

○議長（作元 義文君） 傍聴席が聞こえない部分があります。

○議員（1番 渕上 清君） 少し声を張り上げますから。

○議長（作元 義文君） はい、頑張ってください。

○議員（1番 渕上 清君） 新清会の渕上清君でございます。私は、さきの9月定例会に続きまして、同じ案件について質問をいたしますが、よろしくお願いをいたします。

さきの議会では、私の質問の仕方がまずかったのか、質問と答弁がかみ合いませんで、いささか納得のできる回答をいただけないまま、質問時間が終了いたしました。